

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	建築工学実験						
科目区分	専門科目	単位数	2単位	開講時期	2年後期		
必修・選択の別	建築工学コース:必修科目/建築コース:必修科目/デザインコース:選択科目						
担当者	津田和明、河上 嘉人、依田 浩敏、齋藤 健二						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋や鉄筋コンクリートなど建築構造の試験法を習得する。 ・コンクリートや木材など建築材料の性質を理解し、説明できる。 ・熱、光、空気、音など建築環境の性質を理解し、説明できる。 ・試験・計測器の取り扱い方を習得する。 ・測定した結果を分析し適切に評価してレポートとしてまとめることができる。 						
内容	9月20日 9月27日 10月4日 10月11日 10月18日 10月25日 11月1日 11月8日 11月15日 11月22日 11月29日 12月6日 12月13日 12月20日 1月10日	第1回:導入講義:授業の進め方と概要の説明、成績評価の方法、(A、Bクラス合同) 第2回:建築環境(1)Aクラス 建築生産(1)Bクラス 第3回:建築環境(2) " 建築生産(2) " 第4回:建築環境(3) " 建築生産(3) " 第5回:建築環境(4) " 建築生産(4) " 第6回:建築環境(5) " 建築構造(1) " 第7回:建築生産(1) " 建築構造(2) " 第8回:建築生産(2) " 建築構造(3) " 第9回:建築生産(3) " 建築生産(5) " 第10回:建築生産(4) " 建築環境(1) " 第11回:建築構造(1) " 建築環境(2) " 第12回:建築構造(2) " 建築環境(3) " 第13回:建築構造(3) " 建築環境(4) " 第14回:建築生産(5) " 建築環境(5) " 第15回:まとめ(A、Bクラス合同)					
成績評価基準	報告書・レポートの内容で評価する。						
授業到達目標の達成度	構造・生産・環境の全学生平均点はそれぞれ75・70・84点であり、構造・生産部門はそれぞれ5点、環境部門は7点、昨年度よりも向上した。、全分野の平均は76点であった。各分野の評価基準は多少改善されたが更に改善が必要である。合格率は昨年度が79%、今年度は82%で少し向上しており、目標は達成したと考える。						
反省点	生産部門や環境部門のレポート提出はしているのに構造部門のレポートを提出していない学生が多い。初めから放棄しているので提出の指導を徹底したい。環境部門では印刷レポートと共に電子ファイルの提出も課したが概ね良好な提出状況であった。						
来年度の計画	構造、生産、環境各分野の評価基準を更に揃えたい。 昨年と同様に適宜レポート提出有無のチェックを行って注意を促し、レポート未提出者をできるだけなくしたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	今年度は学生の自由記述は無かったが実験が楽しかったとの意見があり、実験の面白さが伝わったと思う。自由記述についてはアンケート方法を見直す必要がある。アンケートが形骸化していると思われる。						
履修登録者数	66名	定期試験 受験者数		合格者数	54名	合格率	82%